

「入行2年目」によくあるこんな悩み ——どう対処すればいい!?

- ①～③ 古里 圭史 飛騨信用組合 飛騨常勤理事 総務部長
- ④～⑨ 南川 善光
- ⑩⑪ 塩川 治明
- ⑫～⑭ 京野 公平 金融アドバイザー

新人扱いされなくなり、担当業務の幅が広がる「2年目の若手行職員」が抱きやすい悩みを挙げて、その対処法などを紹介します。



●業務全般に関する悩み

2年目になり業務量が一気に増えた…。初めて取り組む業務ばかりで覚えることが多く大変だ…

悩み1

2年目になると任せてもらえる仕事も増え、先輩や上司からの期待も高まります。ようやく職場や業務に慣れてきたかなと思いつつ同時に、どんどん新しい業務も増え、プレッシャーを感じているのではないのでしょうか。期待してもらえていることに嬉しさを感ずる反面、不安も大きくなっていくのはなぜか。

少し先を見ることも大切

新入行職員も配属になり、先輩になった人も多いと思います。とはいえ、業務上わからないことは

きちんと自身で確認し、不明な点をしっかりと潰しておく習慣をつけることが大切です。ここでわからないことがあっても聞かずにそのままにしておいたり、中途半端にうまくやり過ごしてしまったりする癖をつけてしまうと後が大変です。

わからないことは年次が上がれば上がるほど、この先どんどん聞きづらくなってしまいます。「もう2年目ですが、まだ2年目」です。業務に関してもここは踏ん張りどころ、大変ながらも真摯に仕事に向き合う姿勢を持ってもらいたいところ。

対処のポイント

- ・業務上わからないことは自分で確認を行い、不明な点を潰しておく習慣をつける
- ・業務が大変でも、真摯に仕事に向き合う姿勢を持ち続けることが重要である

今の自分自身にとっても、これからのためにも「何がわからないのか」を明確にし、確認していくということは、とても大切な習慣・スキルになりますのでぜひ心がけてみてください。

また、ここでしっかりと業務に取り組み、理解を深めておかないと後々皆さん自身が大変苦労することになります。なぜならいざ皆さん自身が後進の指導に当たらなくてはならない日が来るからです。今はなかなかそんな先まで考える余裕はないと思いますが、「目線を上げて少し先を見る」ことも大切です。

●業務全般に関する悩み

悩み2



コロナ対応などもあり、皆忙しそう…。1年目比べると指導なども丁寧にしてもらえていない気がする…

2年目になるとこのような悩みを持つ人も多いのではないのでしょうか。先輩や上司は次の新入行職員の指導に時間をかけなくてははいけませんし、皆さんに対してはある程度の安心感を持っていてはまずですから、当然このような状況となるでしょう。

受け身の考えは捨てる

ただ、業務の中でわからないことがある場合には、やはり先輩や直属の上司とできるだけ密にコミュニケーションを取ることを心がける必要があります。「見てくれている、声をかけてもらえる」という受け身の考えは捨てなくて

●業務全般に関する悩み

悩み3



2年目になっても扱われ方が1年目と変わらない…。もっといろいろ任せられて仕事を頑張りたい…

このような状況となっている原因は皆さん自身にあることもあれば、職場の状況にあることもありますし、一概には判断できないかと思っています。

「今担当させている業務スキルも不十分で、他の業務を担当させるのは早い」と上司が考えていることもあるでしょうし、皆さんに問題は無いが、上司が業務ローテーションについてあまり考えていない、職場の人員的な問題等から必要性がない——と判断しているかもしれません。

評価のギャップを認識する

この場合、それについて思い悩

むのは得策とはいえません。自分の働き方や業務遂行について自己内省することは重要ですが、上司へ能動的にコミュニケーションを図ることがやはり大切です。自分の状況に対して疑問がある・他の仕事にも携わってみたいというなら、それを上司に伝えてみてはどうでしょうか。

年に数回、考課などでオフィシャルな面談の機会があるはずですが。これは先輩や上司にあなたの考えに気付いてもらえる機会になるとともに、あなた自身にとっても現在の状況に対する説明や、あなたに対する第三者からの評価を得られる重要な機会となります。

特に客観的な評価と自己評価とのギャップを認識することが重要です。私たちの仕事は第三者からの評価で成り立っていますから、このギャップを埋める努力を繰り返すことが成長につながります。

対処のポイント

「他の仕事にも携わってみたい」といった意志を自分から伝えてみる